

うらやま たきざわ  
浦山ダム、滝沢ダム  
「防災操作」で河川水位上昇を緩和

どくりつぎょうせいほうじんみずしげんきこう あらかわ  
独立行政法人水資源機構 荒川ダム総合管理所が管理する浦山ダム及び滝沢ダムでは、台風15号による豪雨により増加した河川水の一部をダムに溜め込む「防災操作」を行いました。

浦山ダムでは、この出水に対して、ダムに流れ込む水の量が最大毎秒約81立方メートルの時に、毎秒約76立方メートルの水を貯水池に貯め、下流河川の水位をダムがない場合に比べて低下させることができました。

滝沢ダムでは、同様に、ダムに流れ込む水の量が最大毎秒約138立方メートルの時に、毎秒約34立方メートルの水を貯水池に貯め、下流河川の水位をダムがない場合に比べて低下させることができました。

※防災操作とは、大雨などの際、流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込むことでダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させるダムの操作方法です。



令和元年9月10日

独立行政法人 水資源機構  
荒川ダム総合管理所

発表記者クラブ

秩父記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 荒川ダム総合管理所  
総務課長 川崎  
第一管理課長 富田

埼玉県秩父市荒川久那4041  
TEL 0494-23-1431 (代表)

## 浦山ダム、滝沢ダムの防災操作 ～台風15号による降雨において河川水位上昇を緩和～

### 【台風15号による出水】

台風15号の影響で、8日（日）夕方より本格化した降雨は、浦山ダム流域では<sup>※1</sup>総雨量166ミリに達し、浦山ダムに流れ込んだ水の最大量は、毎秒約81立方メートルに達しました。

また、滝沢ダム流域では<sup>※1</sup>総雨量131ミリに達し、滝沢ダムに流れ込んだ水の最大量は、毎秒約136立方メートルに達しました。

（※1 総雨量は8日18時から9日7時までの値）

### 【浦山ダムで最大毎秒約76立方メートルの防災操作を実施】

この出水に対し浦山ダムでは、ダムに流れ込んだ水のうち、<sup>※2</sup>約207万立方メートルをダム湖に貯めて、川の水を減量しました。これは東京ドーム約1.7杯分になります（添付資料2参照）。最も多くダムに水が流れ込んだ時（毎秒約81立方メートル）に、ダムから流している水の量は毎秒約5立方メートルでした（低減量毎秒約76立方メートル、低減率約94%）。

（※2 ダムへの貯め込み量は8日21時から9日20時までの値）

### 【浦山ダムの防災操作による下流河川の水位低減効果】

今回の出水における防災操作により、下流河川の水位をダムがない場合に比べて低下させることができました。

### 【滝沢ダムで最大毎秒約34立方メートルの防災操作を実施】

この出水に対し滝沢ダムでは、ダムに流れ込んだ水のうち、<sup>※3</sup>約51万立方メートルをダム湖に貯めて、川の水を減量しました。これは、東京ドーム約0.4杯分になります（添付資料3参照）。最も多くダムに水が流れ込んだ時（毎秒約138立方メートル）に、ダムから流している水の量は毎秒約104立方メートルでした（低減量毎秒約34立方メートル、低減率約24%）。

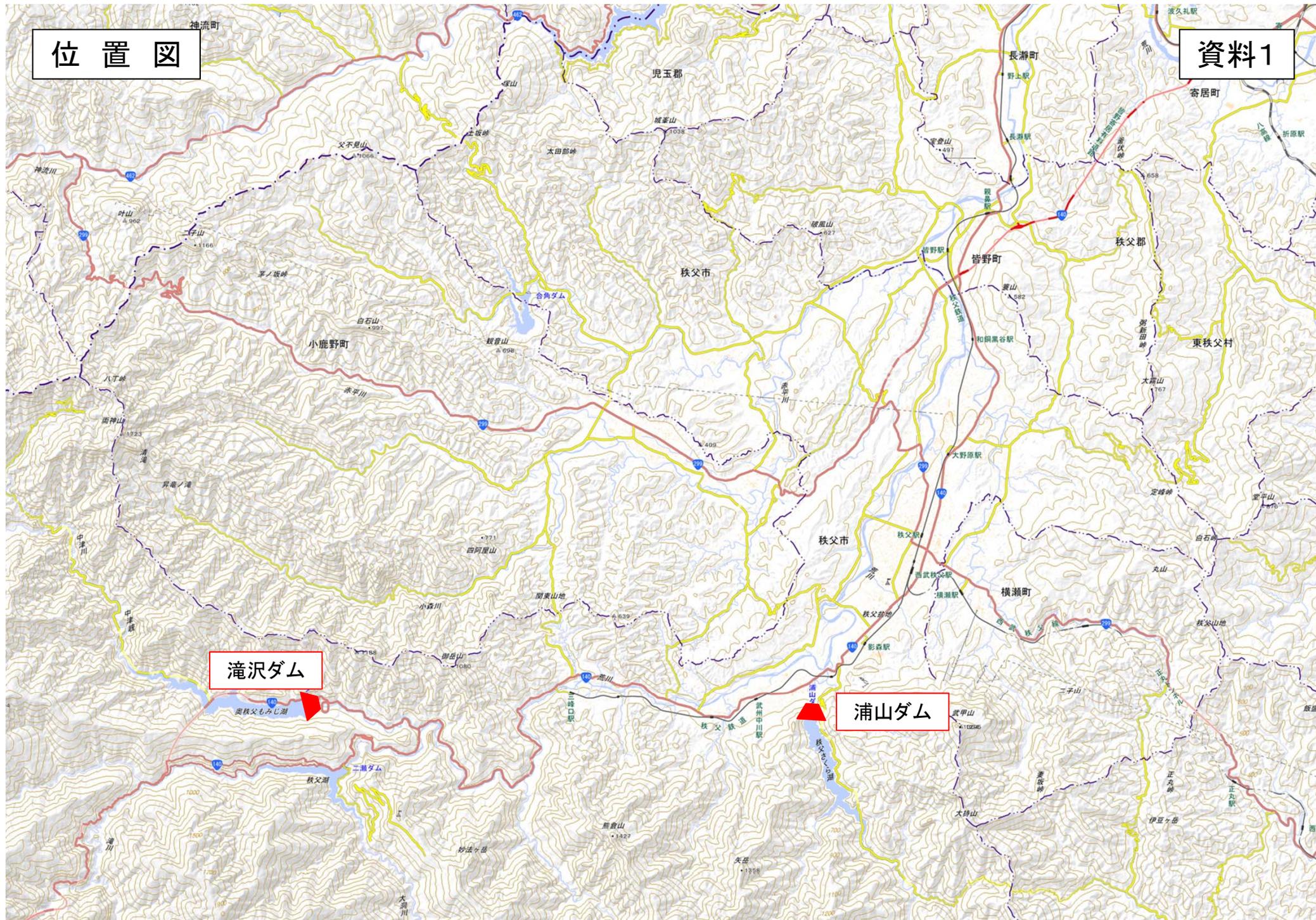
（※3 ダムへの貯め込み量は8日21時から9日20時までの値）

### 【滝沢ダムの防災操作による下流河川の水位低減効果】

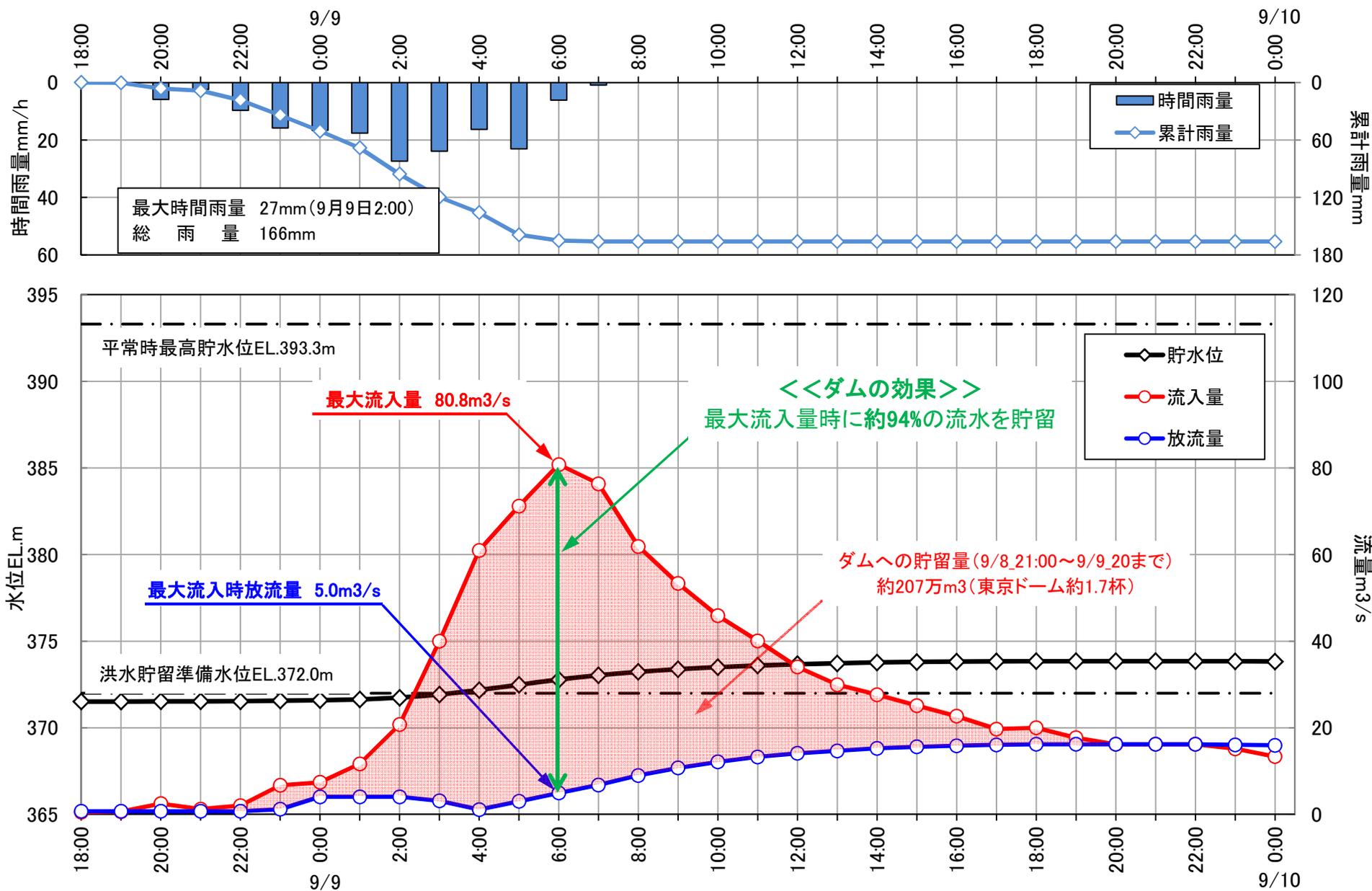
今回の出水における防災操作により、下流河川の水位をダムがない場合に比べて低下させることができました。

# 位置図

# 資料1

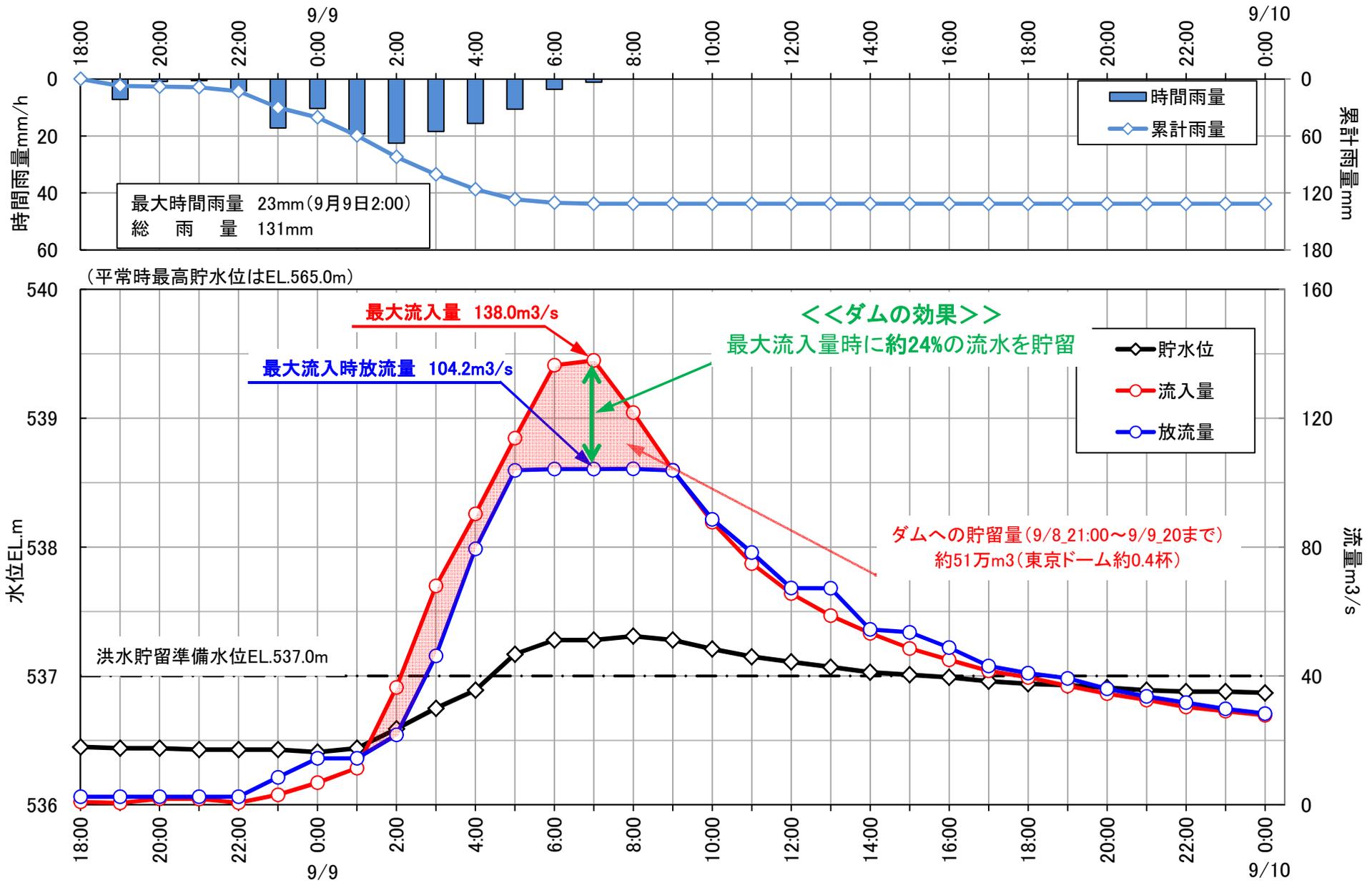


■浦山ダム防災操作図(令和元年9月8日~9月9日 台風第15号)



※本データは速報値のため、今後変更する場合があります。(グラフのデータは1時間毎の値を示しており、分単位のデータは反映しておりません。)

■滝沢ダム防災操作図(令和元年9月8日～9月9日 台風第15号)



※本データは速報値のため、今後変更する場合があります。(グラフのデータは1時間毎の値を示しており、分単位のデータは反映していません。)